

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
成人・老年看護学実習Ⅱ(慢性期看護)	NSP34_003	必修	2	3	後期	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
吉岡 睦世 他	412	m.yoshioka	実習最終日の金曜日 16:00～18:00			
授業の目的・概要	健康障害を持つ成人期・老年期にある慢性期疾患対象者を全人的にとらえ、対象者の発達特性や生活、健康レベルの特徴を理解する。また、実習を通して既習の知識・技術を統合し、適切な看護が実践できる基礎的な能力を修得することを目的とする。実習は、臨地実習および学内対面式で行う。					
学習上の助言	成人看護援助論Ⅱ、成人・老年看護援助論Ⅱで学んだ知識と技術を基に、専門基礎科目の知識の理解を深めること、さらには対象者であるそのひとへの理解を深め自らの看護への関心を高められるよう実習を通して学んでほしい。					
教科書	受け持ち対象者に合わせて各自で選択する。また教員からも適切な教科書をその都度提示する。					
参考書	・経過別成人看護学③ 慢性期看護 第2版 /編:黒江ゆり子 /メヂカルフレンド社 /2021 ・1・2年次に使用した、系統看護学講座(医学書院)の疾患別の教科書、がん看護学、人体構造機能学、疾病治療論、薬理学、病理学等の授業の教科書 等					
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針			
①	慢性期・終末期にある健康障害を持つ成人期・老年期の対象者とその人の生活をとらえる。	HSU(1), NS(1)				
②	対象者の健康レベル・健康障害の特徴を理解する。	NS(1)				
③	対象者の健康の維持・増進、回復、QOL向上に向けて必要な看護を判断し、計画・実施・評価できる。	HSU(4), NS(1)(2)(3)				
④	対象者や医療従事者等と良好な人間関係を構築できる。	HSU(1), NS(3)(4)				
⑤	保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割や多職種との連携・協働の必要性を説明できる。	HSU(4), NS(3)(4)				
⑥	看護職者を目指すものとしてふさわしい態度をとることができる。	NS(1)(5)				
授 業 計 画						
1. 実習時期・期間・時間 実習時期：3年次 後期、実習期間：2週間 実習時間：9:00～16:00						
2. 実習場所・実習グループ 実習要項参照						
3. 実習展開						
	週	月	火	水	木	金
	1週目	学内実習	臨地実習	臨地実習	臨地実習	臨地実習
	2週目	臨地実習	臨地実習	臨地実習	臨地実習	学内実習
4. 学生配置 学生は1グループ6～7人とする。						
5. 最終提出物について 各個人で実習評価表、実習記録一式、課題レポートを提出する。						
*詳細については、実習オリエンテーション時に説明する。						
学習課題・学習時間(時間)						
<概要> ・本実習は、2年次成人看護援助論ⅡもしくはⅢで学んだ内容について対象者の個性を活かした看護実践を行う。そのため、これまで学んできた基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目を活用すること。 ・成人・老年看護援助論Ⅱで学習した慢性期看護過程の展開について復習し、習得して実習に臨むこと。						
<学習課題・学習時間詳細> 1. 実習オリエンテーション 実習前の各論実習オリエンテーションで、実習目的・目標・具体的行動目標・倫理等について説明を行う。 2. 事前学習(1時間) 学習上の助言で提示した既習の知識およびこれまで学んできた基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目について整理・ファイリングし、実習中に活用できるよう準備する。 3. 日々の実習記録(1時間×10日=10時間)、看護過程記録(2時間×8日=16時間) 日々の実習終了後、学び、考えたことをまとめる。 4. 実習のまとめのレポート(3時間) 全ての実習終了後、既習学習で学んだことと結びつけて考察し、自分の考えをレポートにまとめる。必要時間：30時間						

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

総合評価割合(%)		達成度評価					合計	
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他		
		0	70	20	0	10	100	
総合力指標	知識・技術力	0	20	5	0	0	25	
	思考・推論・創造する力	0	35	0	0	0	35	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5	
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5	
	コミュニケーション力	0	5	5	0	0	10	
	取組みの姿勢・意欲	0	5	5	0	5	15	
		0	5	0	0	0	5	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	評価は、日々の実習記録、看護過程の展開の記録および実習のまとめのレポートにて行う。			記録物の添削を行い、日々の個別面接時、口頭およびコメント記載によりフィードバックする。 評価面接時、授業評価点の一部として提示する。		
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
成果発表	①	✓	ケースカンファレンスでの受け持ち患者への看護についての看護展開についての発表および学生同士の意見交換での姿勢により評価する。			発表後のカンファレンス時、グループ全体に口頭にてフィードバックする。		
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①		実習姿勢を総合的に評価する。			実習中、口頭およびコメント記載によりフィードバックする。評価面接時、取り組みの姿勢における授業評価点の一部として提示する。		
	②							
	③							
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
備 考								
他 担 当 教 員		梶原睦子						
教員の実務経験		科目責任者は看護師として10年以上の臨床経験を有し、他の教員も看護師として豊富な臨床経験を有する。						
実践的授業の内容		実務経験のある教員のもと、慢性病を持ちながら生きる患者と家族への看護の実際を学ぶ。						
そ の 他		<実習における注意事項> ・記録物は教員の指定した期限を遵守し提出すること。 ・実習を通して倫理的な態度で行動すること(言葉づかい、他者の話を聴く姿勢、報告・連絡等)。 ・実習期間中の健康管理に心がけ、体調を整えて実習に臨むこと。 ・社会情勢によって再度シラバスが変更になる可能性がある。						